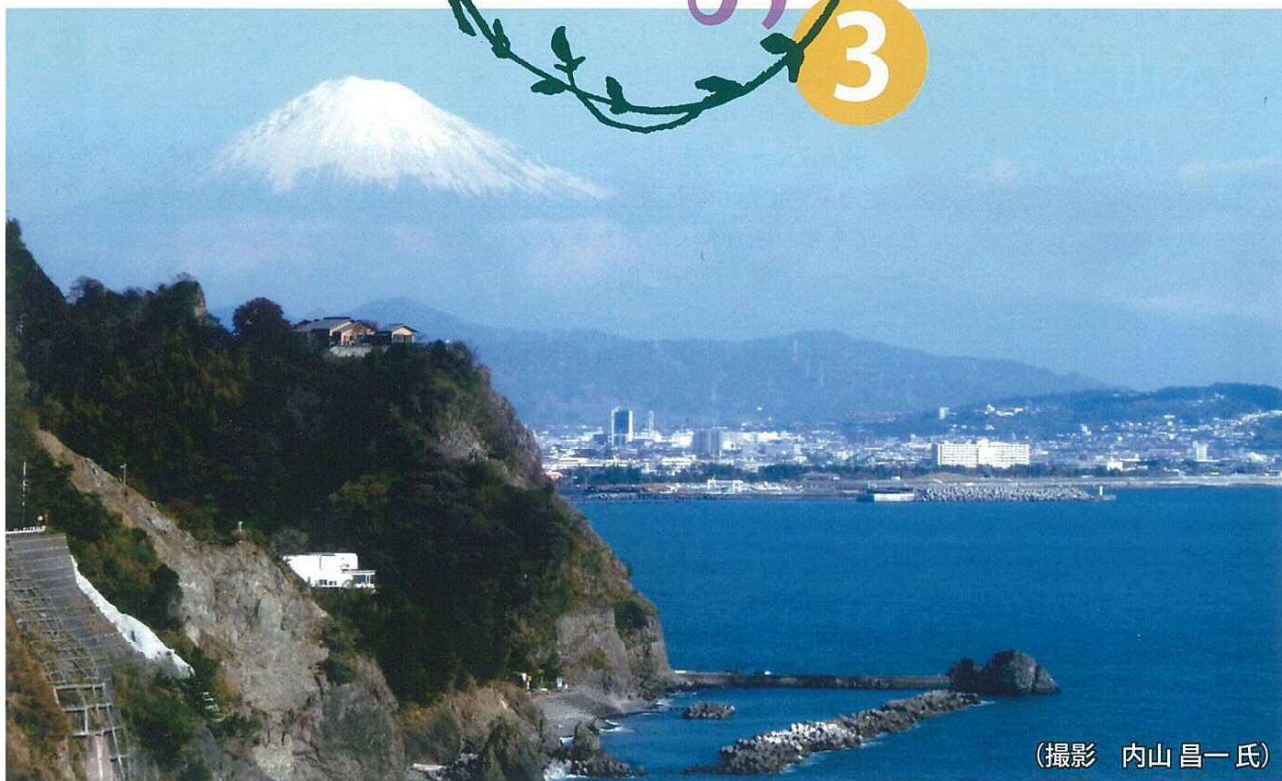


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山昌一氏)

いちばんしあわせ

「瀬戸物と瀬戸物がぶつかりつくとすると、すぐ壊れちゃう。どつちかがやわらかければ大丈夫。やわらかい心を持ちましょう。そういう私は、いつも瀬戸物」と、相田みつおさんは言う。

どうすれば良いかは分かっている。だが、出来ない。出来ないことも分かっている。このような在り方が、凡夫と呼ばれる。凡夫にとって日常生活の節目となる時節は、改めて自分の在り方を気付かしてくる。凡夫であることを忘れて生きていたことを。

「今から思えば、あの頃は本当に幸せだった」と言うのを聞くことがある。幸せなときに幸せと感じることが出来ないまま年を重ねている。

クマのプーさんに「なんでもないってことがほんとうは、いちばんしあわせ。『もつともつと欲しい』と思うのが本当は、いちばんかなしい」とある。

凡夫であることに気付けば世界は変わって見える。だからプーさんは「この世界はたのしみに満ちている。りっぱな家でも、古くて小さな家でも同じ。すぐ近くにあるしあわせに気づかずにいるだけなんだ」と言う。

(岸本 秀一 記)

しゅんぎひがんえ
春季彼岸会・
ほんざんざしむけふきよう
本山差向布教
のご案内

西遊記のモデルとして知られる玄奘三蔵に先立つこと 240 年以上前に、中国からインドに渡った僧がいる。

「沙河中はしばしば悪鬼、熱風が現われ、これに遇えばみな死んで、一人も無事なものはない。空には飛ぶ鳥もなく、地には走る獣もない。見渡すかぎり (の広大な砂漠で) 行路を求めようとしても抛り所が無く、ただ死人の彼骨を標識とするだけである。」

(『法顕伝』東洋文庫 長沢俊和訳)

399 年～ 412 年、中国の東晋の僧法顕がインドに戒律を求めて、ゴビからタクラマカンに至る砂漠 (沙河とは砂丘が常に河が流れるように移動する、流砂である) を描いた部分である。人骨をもって道しるべとする、あるいはラクダや馬の骨も利用していたのであろう。なぜ命を懸けてまで仏法を求めたのか。しかもその道は、先だって歩んだ人の骨に教えられる道である。

彼岸になると、今はないお世話になった人を、また忘れがたい人を思い出す。普段は忘れていたが、無数のいのちの歴史に導かれ歩ましめられている自分に気付く。法顕伝の後書きには、「仏教が東伝してより、いまだかつて身を忘れて法を求むること法顕のような人はいない。(略) 常人の重んずるところ (身命) を忘れ、その忘れるところ (仏法) を重んじたからである」とある。

この春彼岸、私は何を重んじていたのか、考えてみたい。

記

平成 27 年 3 月 22 日 (日)

午前 10 時

しょうとくたいしほうざんえ
聖徳太子奉讃会

法話 (1 席)

午前 11 時 30 分

合唱団「エコー」演奏会

正午

とき
お斎

午後 1 時 30 分

春季永代経法要

法話 (2 席)

ほんざんざしむけふきよう
本山差向布教使

ふじたにしんどう
藤谷 信道 師 (兵庫県・芦屋市・如来寺住職)

※お斎の準備の都合上、**3月15日までにハガキ**でお申し込みください。



宗教関係の出版社が、「正信偈」の解説書を出版するのに、東京の女子高校生に、「正信偈」にルビを振ってくださるようお願いしたら、「マサノブゲ」が一番多く、その次が「セイシンゲ」で、「ショウシンゲ」と読んだ人は、少数だったそうです。それで、「ショウシンゲ」と読まれなければ、書籍を手にとつてもらえないというので、その本には「正信偈」の下に「SHOUSINGE」とローマ字で書かれていました。私たちが、「正信偈」を「ショウシンゲ」とすぐ読めるのは、正信偈のお勤めをされ、お念仏に生きたられた人々に出遇ってきた人々が、次々と伝えてくださったおかげなのです。

お念仏は、目先のことにとらわれて、自分を見失っていることを当たり前にしている私たちに、目を覚ませと呼びかけられたお釈迦様の『仏説無量寿経』の説法です。その説法の中心である阿弥陀仏の本願のおこころは、「弘経（お経を弘めてくださった）大士、宗師等」の命がけのご苦労によって伝えられました。「大士」は、

印度の龍樹・天親の二菩薩で、「宗師」は、中国の曇鸞・道綽・善導と、日本の源信・源空の祖師方です。親

鸞聖人は、この七人の高僧方が、名もなき庶民の賛同と支えをいたたきながら、お釈迦様をしてお釈迦様たらしめた阿弥陀仏の本願のみ教えを、この世に弘めてくださったと



松井憲一
正信偈の話 ④③
 弘経大士宗師等、拯済無辺極濁悪 道俗時衆共同心 唯可信斯高僧説
（弘経の大士、宗師等、無辺の極濁悪を拯済したまう。道俗時衆、共に同心に、唯斯の高僧の説を信ずべしと。）

れにも「泣きながら 大きい方取る 形見分け」という在り方は、まさに「無辺の極濁悪」でありましょう。それで、阿弥陀仏の本願を世に弘めてくださった大士、宗師のみ教えのみが、「無辺の極濁悪（極めて濁りきつた悪世に沈むわれらの闇）」をあぶり出し懺悔せしめて、「拯済（拯はすくい上げる・済はわたす）したまう」と、讃えられるのです。

最後に聖人は、「道（出家者）俗（在家者）時衆（いかなる時代の人々も）、共に同心に、唯斯の高僧の説（阿弥陀仏の本願）を信ずべし」とと仏弟子・聞法者の座について、呼びかけられます。「道俗時衆」は、お念仏をいただくすべての人々のことで、聖人はいつも仏法を求め人々を「御同朋」「御同行」「御坊」と

敬われます。「弟子一人ももたず（『歎異抄』）」の聖人は、その御同朋・御同行と「共同心（共に同心に）」と、同一の信心に生きようと願われるのです。

七十数億の人がいても、同じ人は一人もいません。身近な親子も夫婦も、似ていても同じとはいえません。性別、体力、趣味、職業などの違いを超えて、同じであることは難しいのです。ここに、真宗門徒が、朝起きれば、先ずお仏壇にお参りし「正信偈」をお勤めしてきた伝承がおもわれます。

南無阿弥陀仏と拝み、自分の愚かさ、気づくとき、立場は違ってもこのころは一つになります。わたしが信じるのでなく、「如来よりたまわたりたる信心（『歎異抄』）」であったと頭が下がるとき、同一の世界が開かれます。それで、聖人は「共に同心に、唯斯の高僧の説を信ずべし」と、共に綿々と伝えられたお念仏の教えに聞き頷くこと、このことひとつを大切にしようとお勧めくださるので、す。このお勤めを、わが身にいたたかうとしたのが、「深きのちに目覚め、一切を拝める人になろう（本山佛光寺のスローガン）」でありましょう。

山門の言葉

人間は死を抱いて生まれ 死をかかえて成長する

信國 淳



昨年、後輩に子供が生まれ年明けによくやく初対面を果たした。母親に抱かれた子供は、手も足も身体も全てが小さく、とても可愛らしかった。私が生まれた時もこれほどまでに小さかったのかと驚かされたことである。

生まれたばかりの子供を前にすれば、誰もが健康で何事もなく成長してくれることを願うであろう。しかし、この先どんな出来事に出遇うのか、両親も子供も知る由もない。これから種々様々な出来事に出遇う事は間違いない。

その中でも肝心なのは、私たちがどうしても避ける事の出来ない「死」が、含まれていることである。生まれてきた以上、死は当然の事として私たちは受け取っている筈なのだが、「いつ・どこで・どのようにして」死を迎えるのかは分からない。だから受け取りきれないのが実情である。老若男女問わず共通する事だが、生まれたばかりの赤ちゃんを見て、そのような事は想

像もつかない。

今回、「人間は死を抱いて生まれ」と言われるのは、死に對し不安や恐れというものだけではなく、「死」から今生きている「生」が問われていることを、言い表しておられるのだろうか。しかし、私たちは永遠にとはいかなくとも、自分自身の予定する年齢までは生きたい、と思う人が大半を占めるのではないだろうか。

しかし、私たちは、思い通りにならない生と死を抱えている。その事実を逆らうような私の在り方が、教えを通し「死」という事実に向き合い、明らかにされるのである。

仏から私に願われているのは、身体や頭脳の成長とは異なる、限り有る身を頂戴し、存在せしめられていくその意義を、尋ねていくことだろう。空しく過ぎていく生にあつて、その意義を見出された方の言葉にうなずくことである。

(大橋 伊知郎 記)

日誌

- 1月17日 定例聞法会
- 1月18日 評議員会新年会 参加者24名
- 1月24日 混声合唱団「エコー練習
同行会新年会 参加者8名
- 1月27日 仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師
- 1月27日・28日 宗祖忌
- 2月2日 東京教区新年会
- 2月4日 婦人会聞法会・東京教区坊守研修会 法話 松井 憲一師
- 2月7日 混声合唱団「エコー」練習
- 2月7日・8日 中興忌
- 2月8日 城東ブロック会聞法会(市川八幡神社 参加者25名)
- 2月12日 責任役員会 総代会
- 2月14日 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 山崎 哲

えごお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

- | | | | |
|-------|----|-----|---|
| 文京区 | 官林 | 以智子 | 様 |
| 北区 | 高橋 | 昭子 | 様 |
| 葛飾区 | 宮崎 | 秀夫 | 様 |
| さいたま市 | 代田 | 一明 | 様 |
| 墨田区 | 神谷 | 和利 | 様 |
| 葛飾区 | 札木 | 良明 | 様 |
| 三郷市 | 青柳 | チヨ | 様 |
| 中野区 | 木田 | 静代 | 様 |
| 台東区 | 栗林 | 信恵 | 様 |
| 台東区 | 飯高 | 多嘉子 | 様 |
| 久喜市 | 伴野 | 典子 | 様 |
| 江東区 | 坂口 | 実祥 | 様 |

新年、おめでとうございます。

昨年とは沢山お世話になりまして、有難う存じました。又、今年もよろしくお願い申し上げます。

元日のご晨朝の後は、お見事なおせち料理をご馳走になりまして、有難う存じました。気持ばかりですが、応接間の読書コーナーに置いて頂ければ幸いに存じます。

どうぞお寒い折ですので、御身をお大切になさって下さいませ。今晚は満月です。どうぞ良い事があります様に。

1月5日

(練馬区 市田 雅子 様)

西徳寺の皆様、お障りもなくお過ごしていらっしゃるでしょうか。御無沙汰を申し上げて居ります。

2015年度の墓地管理料他を、失礼とは思いましたが、足が弱く自信がないので郵送させて頂きました。

今日は「えこお」を頂き、有難うございます。お磨きなどのお写真を見て、もう少し近かったら、若かったらと思う此の頃です。

(横浜市 若林 宏子 様)



読者の声



本年も愈々押し詰まり、余す所後僅かとなりました。思いも掛けぬ出来事が次々と起こった年でありましたが、加齢のせいから早く過ぎ去る1年であった気がしております。

加齢と共に物忘れも増えて参りましたが、同時に失う物が多ければ多い程、物事がよく見えてくるような気がしており、これも物忘れの功德でしょうか。

平成26年12月25日

(池田市 奥 康右 様)

今年も残すところ数日となりましたが、西徳寺の皆様はお元気に過ごしていらっしゃいますでしょうか。10月にお参りに伺った折には、大変お世話になりました。ありがとうございます。

今回、送るのが遅くなりましたが、お花代と御布施を同封しますので、どうかお納めくださいませ。

また、時間の都合がつく時で結構ですので、お墓の前でお経をあげて頂きますようよろしくお願いいたします。来々年4月ぐらいにお墓参りに伺いたいと思います。その日を楽しみに仕事を頑張りたいと思います。

寒さが厳しくなってきましたので、西徳寺の皆様も御身体を大切にしてくださいませ。

かしこ

平成26年12月28日

西徳寺の皆様

(京都市 山本 敏恵 様 舟阪 浩 様)

評議員会新年会

去る1月18日(日)、午後3時より西徳寺本堂におきまして、評議員会新年会が開催されました。来賓として総代会から2名、会員22名の参加のもと盛大に執り行われました。竹内乾一郎会長からは、かつて企画されご門徒の皆様からご好評をいただいた「5ブロック協賛旅行会」を、本年実行したいという提案がありました。

また来賓からは青柳庄一責任役員のご挨拶があり、西徳寺の益々の繁栄のため、門信徒が一丸となって支えていくことを呼びかけられました。

その後、会場を上野・伊豆栄「不忍亭」に移して懇親会が開かれ、とても賑やかなひとときを過ごすことができました。

(木村 専正 記)



掲示版

平成27年3月

- 4日(水) 午前10時 仏具磨き
7日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
8日(日) 午後2時 城北ブロック会聞法会(王子 北とぴあ)
9日(月) 午後2時 東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
10日(火) 午後6時半 仏教青年会レクレーション(寄席の会)
11日(水) 午後1時 婦人会聞法会
13日(金) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第10回)
講師 宗正元師
14日(土) 午後1時半 定例聞法会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 木村主任
18日(水)～24日(火) 春季彼岸会
22日(日) 午前10時 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要
布教使 藤谷 信道師
28日(土) 午後5時45分 同行会修習式
法話 高橋淳

城東ブロック会

去る2月8日、市川八幡神社事務所におきまして、会員22名の参加を頂き、聞法会を行いました。今回は初参加の方が2名来られ、皆さんと『正信偈』の「光に会う」というところを学ばせてもらいました。また質疑の時間では会員である逆井さん手作りのおぜんざいをいただきながら、様々な視点からの意見が飛び交いました。次回は**6月28日(日)、人形町香港美食園**におきまして総会・聞法会を行う予定です。皆様お誘い合わせの上でご参加下さい。

(仲井 真裕 記)



同行会新年会

去る1月24日(土)西徳寺本堂にて19名参加のもと、恒例の同行会新年会が開かれました。勤行の後、安藤会長からはサミエル・ウルマンの「青春」を紹介され、生涯青春で求道していきましょうとのお挨拶を頂きました。岸本住職は阪神大震災などでボランティア活動をされた黒田祐子さんの「人生の旅の荷物は夢一つ」という言葉を紹介され、あれもこれも私たちに、信心一つこそが大切であると教えて頂きました。また大谷顧問からは改めて同行会の長き歴史とともに、今年も『観経』の序分をとおして、日頃の現実から学んでいくことが肝要であるとのお挨拶を頂きました。

その後、栴檀の間に場を移した懇親会では、皆様から今年の抱負をお話し頂いたり、歌を歌って頂いたり大変楽しいひとときを過ごしました。

(山崎 哲 記)



合唱団エコー 新年会

去る1月10日に合唱団「エコー」の新年会が、ご門徒でもある「汀」さんにて開催されました。日頃ご指導をいただいている横山慎吾先生、金澤麻里子先生の他に、昨年の「出かけていく聞法会30周年記念大会」にて指揮をしてくださった朝田祐子先生にもご出席いただき、29名で楽しい時間を過ごしました。

恒例となった参加者一人ずつのお挨拶では、多くの方から「もっと上手になりたい!」と活発な抱負をいただきました。今年も歌を通じて、皆さんと共に学びたいと思います。

(高橋 淳 記)

編集後記

沈丁花は3月を代表する花で、満開になるとよい香りを漂わせて、本格的な春の訪れを教えてくれます。庭先に小さな花が固まって咲きますが、花びらのように見えるのは萼の部分だそうです

今月はお彼岸を迎えますが、22日(日)には春季永代経法要並びに本山差向布教が開座されます。是非ともご参詣いただき、ご一緒にお念仏のいわれを聴聞させていただきます。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com